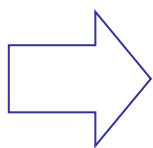


第 2 章 柏市の子育てを取り巻く現状と課題

1	人口等の状況	6
2	子育ての状況	7
3	子ども・子育て支援に対する評価	13

1 人口等の状況

■ 少子高齢化が進行しています

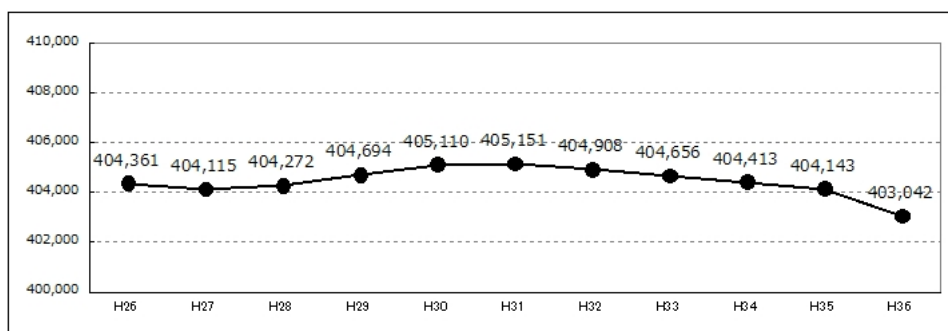


■ 課題

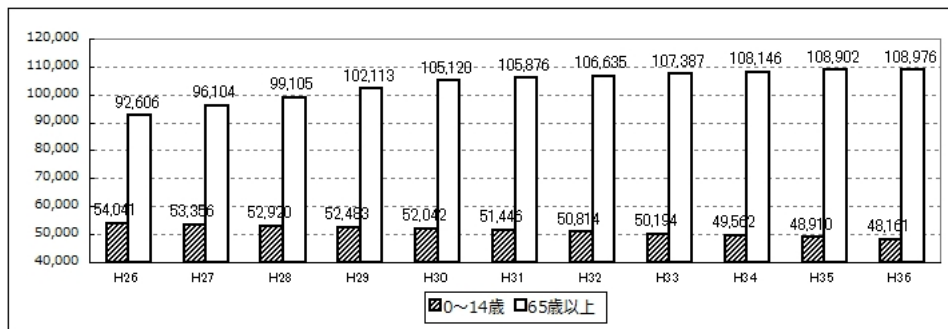
- ① 遊びの機会の減少
- ② 地域の重要性

- ◆ 柏市の人口は、本計画期間内においては増加傾向にあり【図1】、その後減少に転ずる見込みです。その中で、年少人口（0～14歳）が減少する一方、老年人口（65歳以上）は増加が続き、少子高齢化は進行する見込みです【図2】。特に0～5歳人口の減少は、大きいと見込まれます【図3】。子どもの数が減ることは、遊びの機会の減少につながるなど、子どもの健全な育ちに様々な影響があるため、対応が求められます。

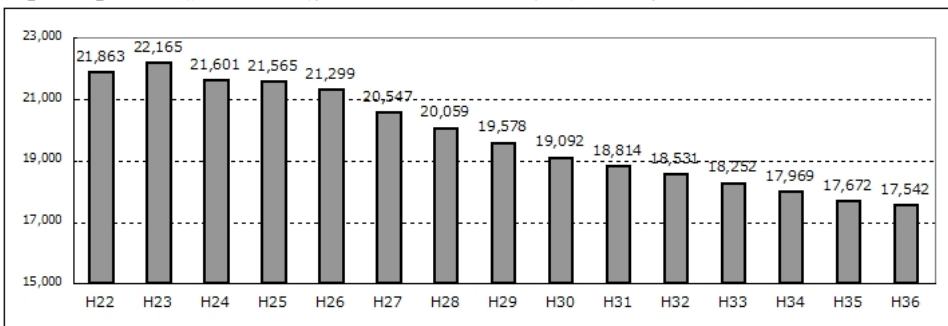
【図1】総人口の推計（H26のみ実績値（4月1日））



【図2】年少人口及び老年人口の推計（H26のみ実績値（4月1日））

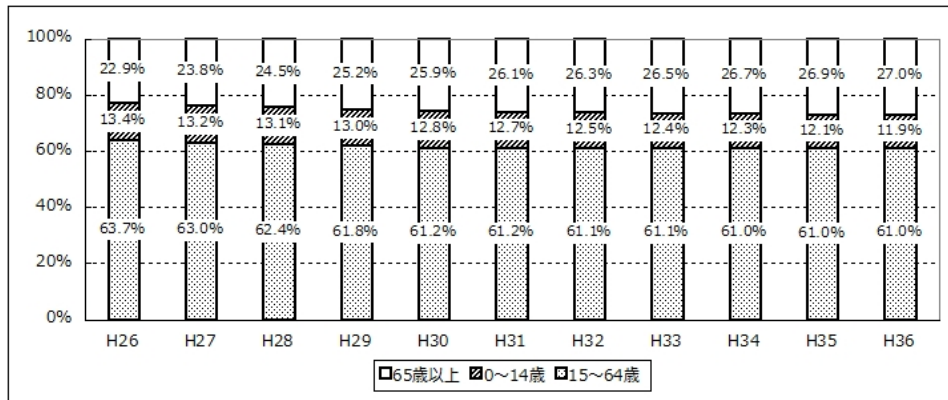


【図3】0～5歳人口の推計（H22～26は実績値（各年4月1日））



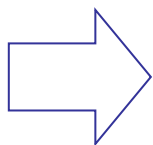
- ◆ 今後、生産年齢人口（15～64歳）の割合が減っていきます【図4】。このことは、地域との関わりが強い子どもと高齢者の割合が大きくなるということであり、これまでも増して地域の重要性が高まっていくといえます。

【図4】年齢構成別人口割合の推計（H26のみ実績値）



2 子育ての状況

■核家族化、地域のつながりの希薄化が進んでいます



■課題

- ③ 子育ての孤立化
- ④ 子育てに係る不安や負担

- ◆ 核家族の割合は、年々高まっています【表1】。このことは、ニーズ調査の結果からもうかがえます【表2】。また、H20と比べH25では、祖父母等の親族が近くに住んでいる割合が高くなっています【表2】。

【表1】6歳未満親族のいる一般世帯の割合

	核家族世帯	その他親族世帯	非親族世帯
H17	88.4%	11.6%	0.0%
H22	90.5%	9.1%	0.4%

(国勢調査)

【表2】親族の居住状況

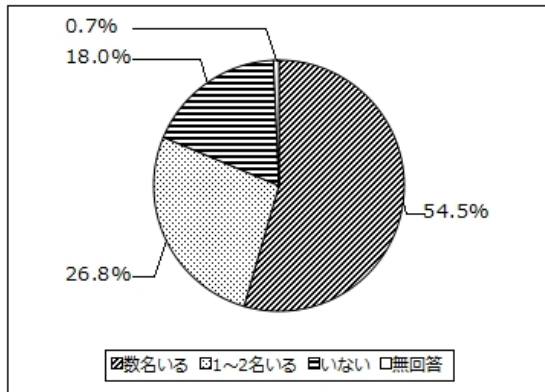
	祖父母等の親族と同居している	祖父母等の親族が近くに住んでいる	その他
H20	11.7%	37.1%	51.2%
H25	11.1%	49.7%	38.4%

(柏市次世代育成支援行動計画策定に係るニーズ調査 平成20年)

(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

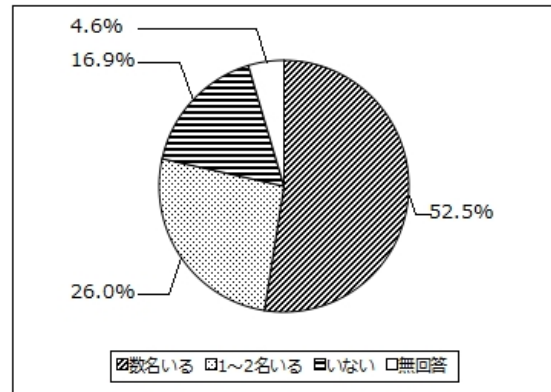
- ◆ 近所の話し相手や子育て仲間が「いない」と回答した割合は、それぞれ18.0%、16.9%となっています【図5】【図6】。いずれの質問でも「いない」と回答した割合は、9.3%となっています。また、平成20年の調査では、近所の話し相手が「いない」と回答した割合が10.3%でしたので、**地域の中でつながりを持たない保護者が増加する傾向にあると考えられます。**

【図5】近所の話し相手の有無



(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

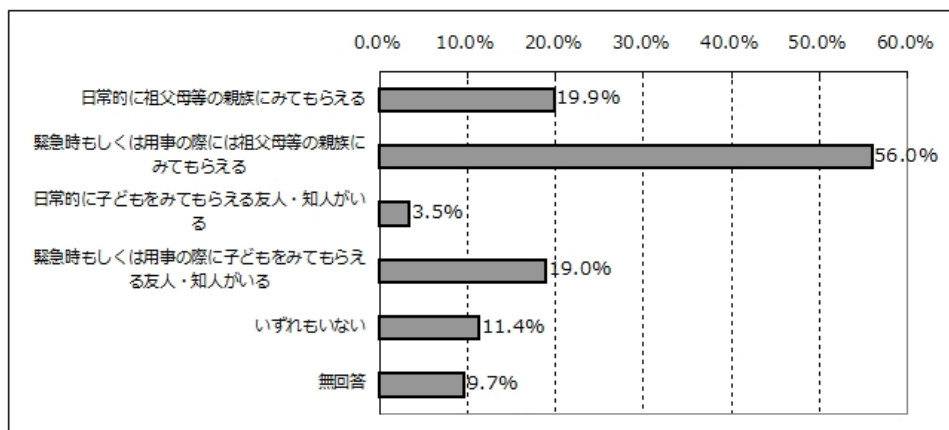
【図6】子育て仲間の有無



(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

- ◆ 子どもをみてもらえる親族等の有無については、多くの保護者が「いる」と回答しています【図7】。これは、祖父母等の親族が近くに住んでいる割合が高いことと関係があると考えられます。その一方で、「いずれもない」と回答する割合が1割強あることから【図7】、**緊急時などに困難な状況に陥る可能性がある保護者が一定数いると考えられます。**

【図7】子どもをみてもらえる親族、知人等の有無



(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

- ◆ 子育ては楽しいかという質問に対して、H25では「楽しい」「楽しいと感じることのほうが多い」と回答した割合が約8割を占めており、H20と比べ、子育てを肯定的に捉えている保護者が増えています【表3】。一方、子育てでいろいろすることはあるかという質問に対しては、「よくある」「ときどきある」と回答した割合が約8割を占めています【表4】。

【表3】子育ては楽しいか

	楽しい	楽しいと感じることのほうが多い	同じくらい	辛いと感じることのほうが多い	辛い
H20	—	59.6%	32.4%	5.3%	—
H25	28.4%	52.4%	17.0%	1.9%	0.0%

(柏市次世代育成支援行動計画策定に係るニーズ調査 平成20年)
(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

【表4】子育てでいろいろすることはあるか

	よくある	ときどきある	どちらともいえない	あまりない	全くない
H25	26.0%	56.2%	6.3%	10.1%	1.2%

(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

- ◆ 子育てでいろいろすることが「よくある」と回答した割合については、子どもの年齢が上がるにつれて割合が高くなる傾向があります。また、回答者の就労の有無別にみると、「未就労」の場合のほうが「就労」の場合よりも高い傾向があります【表5】。子育て仲間の有無別にみると、子どもの年齢が0歳の場合は子育て仲間が「いる」ほうが高くなっていますが、全体としては「いない」ほうが高くなっています【表5】。これらのことは、在宅で子育てをしているほうがいろいろすることがよくあることと、早い段階で子育て仲間を作っておくことがいろいろの軽減につながる可能性があることを示しています。

【表5】子育てでいろいろすることが「よくある」と回答した者の割合
(就労・子育て仲間の有無別)

	子育て仲間	0歳	1歳	2歳
就 労	いる	14.5%	10.6%	18.6%
	いない	4.7%	17.9%	33.3%
未 就 労	いる	16.6%	20.8%	34.3%
	いない	7.7%	24.4%	40.0%

(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

- ◆ 子育てでいらいらすることが「よくある」場合については、他の場合に比べて、子どもを叱るときにたたくなどすることが「よくある」と回答する割合が高い傾向がうかがえます【表6】。前項との関係では、**児童虐待の未然防止策の一つとして、子育て仲間をつくることが有効であることがうかがえます。**

【表6】子どもを叱るとき、たたくなどすることが「よくある」と回答した者の割合（いらいらすることの有無別）

	0歳	1歳	2歳
いらいらすることが「よくある」	3.7%	7.5%	15.2%
いらいらすることが「ときどきある」	0.5%	0.9%	2.6%
いらいらすることが「どちらともいえない」	2.6%	0.0%	0.0%
いらいらすることが「あまりない」	0.0%	0.0%	0.0%

(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

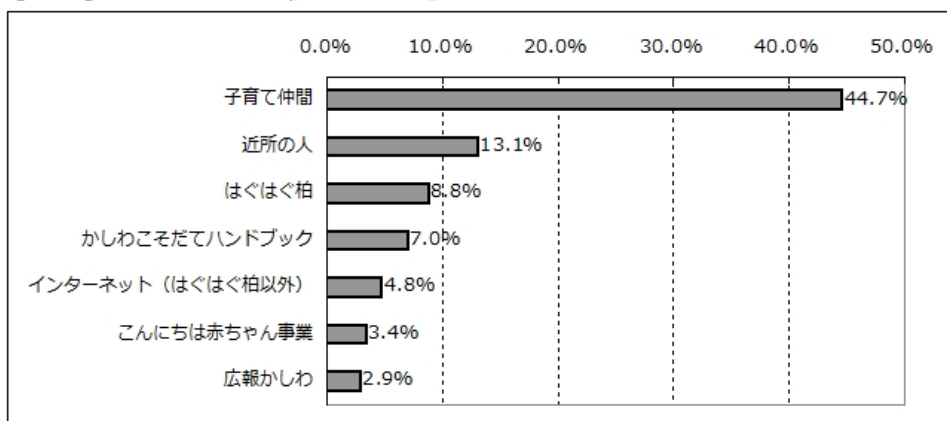
- ◆ 地域子育て支援拠点事業*5を「利用していない」と回答した割合について、回答者の子育て仲間の有無別にみると、子育て仲間が「いない」場合のほうが「いる」場合よりも高い傾向があります【表7】。また、地域子育て支援拠点事業の一形態である「地域子育て支援センター」の利用者が当該センターを知ったきっかけは、「子育て仲間」「近所の人」の順に多くなっています【図8】。これらのことから、**子育て仲間をはじめとする人とのつながりの有無が、子育て支援事業を利用するかどうかに影響していると考えられます。**

【表7】地域子育て支援拠点事業を「利用していない」と回答した者の割合（子育て仲間の有無別）

	0歳	1歳	2歳
子育て仲間が「いる」	63.1%	52.4%	61.3%
子育て仲間が「いない」	80.2%	65.7%	80.8%

(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

【図8】地域子育て支援センターを知ったきっかけ

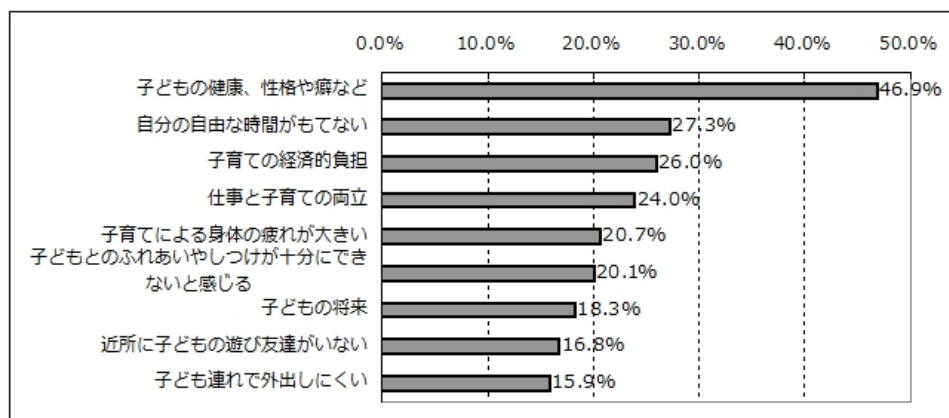


(地域子育て支援センターの利用者向けアンケート調査 平成26年)

*5 地域子育て支援拠点事業：親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、平成27年3月時点で柏市内では、主に認定こども園・幼稚園・保育園に併設する形で実施するもの（「地域子育て支援センター」）と児童センター内で実施するものがある。

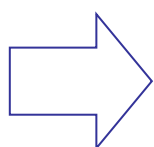
- ◆ 子育てにおける心配や悩みとしては、「子どもの健康、性格や癖」と回答した割合が46.9%で最も多くなっています【図9】。心配や悩みの内容は、子どもの育ちに関するものや保護者自身に関するもの、子育て環境に関するものなど多岐に渡りますが、解消・軽減に向けた支援の方法は一律ではありません。子育て仲間をはじめとする人とのつながりによる方法もあれば、一時的な預かりのように保護者に対する直接的な支援の方法もあります。また、保育園整備のような環境づくりもあります。それぞれの状況に応じた適切な支援が必要だといえます。

【図9】子育ての心配や悩み(15%以上のもの)



(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

■共働き家庭の増加が今後も続きます



■課題

- ⑤ 保育需要の増大
- ⑥ 乳幼児期の教育・保育の質の確保・向上

- ◆ 母親の就労状況は、H20に比べH25では、就労が増加しており【表8】、夫婦の共働きが増えています。「未就労」と回答した者のうち29.8%には就労意向があることから、保育需要は今後も増大すると想定されます。保育環境の整備は、都市機能として必要不可欠なものであることから、積極的に取り組む必要があります。また、母親の就労形態の内訳は、フルタイムが増加し、パート等が減少しています。中でもフルタイム（休業中）の増加が目立ちます【表8】。育児休業に関する質問においても、母親が育児休業を「取得した（取得中）」と回答した割合は、H20の12.9%からH25の27.0%に大きく増加しています。このことから、休業後における保育の円滑な利用の確保が必要だといえます。

【表8】母親の就労状況

	フルタイム	フルタイム (休業中)	パート等	パート等 (休業中)	未就労
H20	13.6%	3.5%	17.6%	—	61.1%
H25	15.8%	8.5%	14.6%	1.1%	58.3%

(柏市次世代育成支援行動計画策定に係るニーズ調査 平成20年)

(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成25年)

- ◆ 待機児童(国基準)*6の人数については、平成27年4月1日時点で0人となるよう、「柏市待機児童解消アクションプラン[前掲*1<2ペ-ジ>]」に基づく取り組みを推進しています。この取り組みにより、平成26年4月1日時点で39人となり、前年比で大きく減少させることができました【表9】。しかし、今後も保育需要が増大すると想定される中では、継続した取り組みが必要となります。また、国基準には該当しない者も含めた、**入園保留者全体を減らすよう取り組んでいくことが求められます。**

【表9】待機児童数の推移

	H22.4	H23.4	H24.4	H25.4	H26.4
待機児童数 (国基準)	183人	154人	133人	117人	39人
入園保留者数 (国基準を含む)	344人	363人	340人	326人	151人

- ◆ 保育需要の増大に対応した保育環境の整備を進めていく際には、「量」の問題だけでなく、「質」の確保・向上への配慮が当然に必要となります。このことは、認定こども園、幼稚園、保育園、そして、子ども・子育て支援新制度において新たに創設される地域型保育事業*7など、子どもの健全な育ちを支える全ての施設・事業に求められることです。**乳幼児期の教育・保育が将来にわたる人格形成の基礎を培うものであるとの認識に立った取り組みが必要です。**

*6 待機児童(国基準)：認可保育園への入園申請がなされており入園条件を満たしているにもかかわらず、認可保育園に入園できない状態にある児童から、国の基準で定められている、他に入園可能な認可保育園があるにもかかわらず特定の保育園を希望し、保護者の私的な理由で待機している場合や、柏市が独自に認証や認定をしている保育施設で保育されている場合などを除いたもの。

*7 地域型保育事業：家庭的保育事業*8、小規模保育事業*9、居宅訪問型保育事業*10及び事業所内保育事業*11のこと。原則として満3歳未満の子どもを、少人数の単位で預かる事業である。

*8 家庭的保育事業：保育者の居宅等において保育を行う事業(利用定員：5人以下)

*9 小規模保育事業：原則として、利用定員が6人以上19人以下の施設において保育を行う事業。保育者の保育士資格の有無等によって、A型・B型・C型の類型に分けられる。

*10 居宅訪問型保育事業：子どもの居宅において保育を行う事業

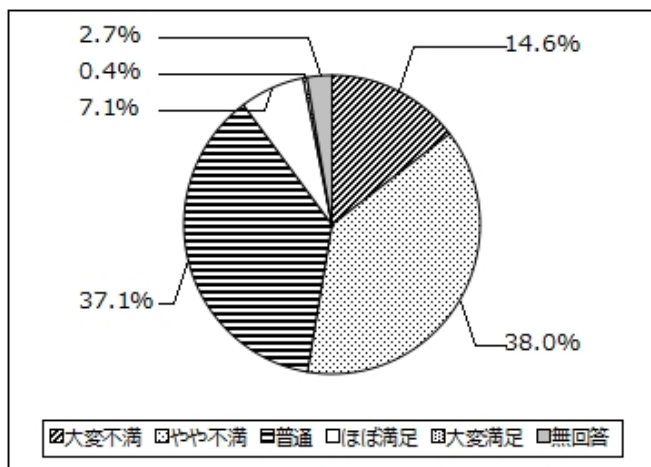
*11 事業所内保育事業：企業等の事業所の保育施設などにおいて保育を行う事業

3 子ども・子育て支援に対する評価

(1) 子育ての環境や支援への満足度

- ◆ 柏市における子育ての環境や支援への満足度については、「大変不満」「やや不満」を合わせた不満寄りの回答が半数以上を占めています【図 10】。今後の子ども・子育て支援の取り組みを考えていく上では、この結果を真摯に受け止める必要があります。

【図 10】子育ての環境や支援への満足度



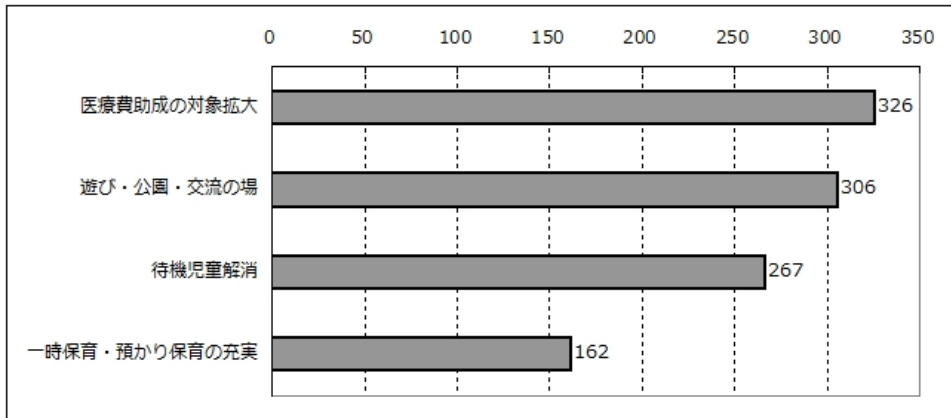
(柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査
平成 25 年)

満足度については、「大変不満」又は「やや不満」と回答した理由までは質問しておりませんが、自由意見の内容から、不満の対象となっているものの傾向がうかがえると考えました。そこで次項では、自由意見の状況を確認します。なお、自由意見への回答は、調査回答者 2,297 人の 79.3% に当たる 1,821 人から得ています。

(2) 自由意見等の状況

- ◆ 子育ての環境や支援に関して自由意見を求めたところ、回答内容で最も多かったのは「医療費助成の対象拡大」で、以下「遊び・公園・交流の場」「待機児童解消」「一時保育・預かり保育の充実」が続いています【図 11】。これらは、不満の主たる原因である可能性があることから、今後の取り組みにおいて、特に配慮を要するものといえます。なお、「医療費助成の対象拡大」については、平成 26 年 8 月から、小学校 3 年生までだったものを中学校 3 年生までに対象を拡大したところです。

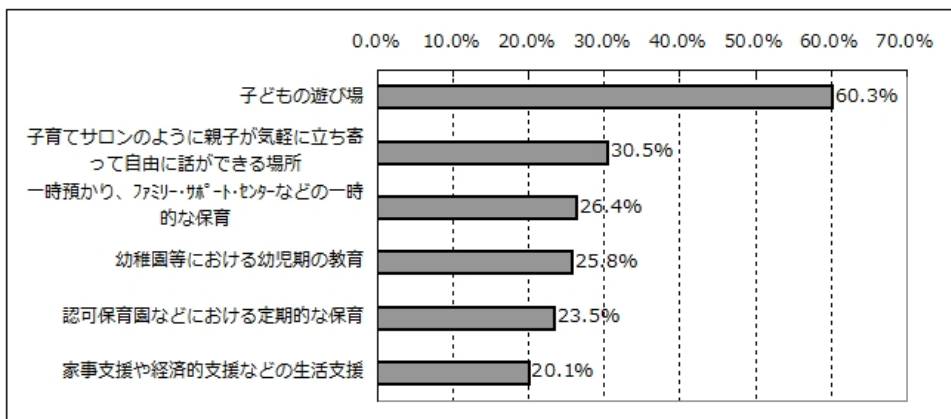
【図 11】自由意見の内容（100 件以上のもの）



（柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成 25 年）

- ◆ 子育てを行う上で必要と思われることとしては、「子どもの遊び場」と回答した割合が群を抜いて多くなっています【図 12】。子どもの健全な育ちにとって大変重要である「遊び」について、多くの保護者がとても大事なものであると感じていることがうかがえます。

【図 12】子育てを行う上で必要と思われること（20%以上のもの）



（柏市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査 平成 25 年）

（3）これまでの子ども・子育て支援施策・事業の実施状況

- ◆ 柏市では、これまで、「柏市次世代育成支援後期行動計画」に基づき、子ども・子育て支援の施策・事業を実施してきました。当該計画では、各種事業の達成状況を把握できるよう、平成 26 年度の「目標事業量」を設定しています。このうち、主な事業の「目標事業量」に対する平成 26 年度途中までの実施状況等は、以下の表【表 10】のとおりです。

これまで取り組んできた中で、おおむね事業量を拡大することができましたが、一部の事業を除き目標事業量を下回っています。本計画の策定に当たり、需要の状況を改めて把握し直す必要があります。

【表 10】目標事業量に対する実施状況等

	H22年度 実績	H23年度 実績	H24年度 実績	H25年度 実績	H26年度 (各時点)	H26年度 目標事業量
通常保育事業 (認可保育園箇所数 及び定員数)	34 か所 4,020 人	38 か所 4,207 人	41 か所 4,467 人	44 か所 4,737 人	51 か所 5,100 人 (4/1 時点)	41 か所 4,830 人
放課後児童健全育 成事業 (こどもルームが設置 されている小学校区 数及び定員数)	37 か所 2,100 人	37 か所 2,110 人	38 か所 2,255 人	39 か所 2,350 人	40 か所 2,425 人 (4/1 時点)	41 か所 2,310 人
地域子育て支援セン ター事業 (箇所数)	10 か所	14 か所	19 か所	19 か所	17 か所 (11/1 時点)	18 か所
子育て広場事業 (箇所数)	6 か所	6 か所	8 か所	8 か所	8 か所 (4/1 時点)	10 か所
一時保育事業 (事業を実施している 認可保育園の箇所 数)	12 か所	12 か所	14 か所	16 か所	20 か所 (10/1 時点)	21 か所
ファミリー・サポート・ センター事業*12 (協力会員及び両方 会員の人数)	227 人	243 人	250 人	257 人	264 人 (12/1 時点)	協力会員 数の拡大
子育て短期支援事業 *13 (箇所数)	1 か所	1 か所	1 か所	1 か所	1 か所 (4/1 時点)	2 か所
病児・病後児保育事 業*14 (箇所数)	1 か所	1 か所	1 か所	1 か所	1 か所 (4/1 時点)	2 か所

*12 ファミリー・サポート・センター事業：児童を一時的に預かり、必要な保護を行ったり、児童が円滑に外出することができるよう、その移動を支援したりといった援助を受けることを希望する者と、援助を行うことを希望する者との連絡及び調整などの支援を行う事業

*13 子育て短期支援事業：保護者の疾病その他の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設その他の施設に入所させ、必要な保護を行う事業

*14 病児・病後児保育事業：児童の疾病などのために保育園等に預けられない場合で、保護者が就労などにより家庭において保育を行うことが困難なときに、保育を行う事業

